

1. 科学か？疑似科学か？

マックス・グーケアーの「プロテスタントとカトリックの推論は、それぞれの宗派が持つイメージに流されたいように考えを進めている。自分が何かをABCで考えるときも、イメージに流されたいように気をつけた。気象学も社会科学も、「Aの事象が起きると必ずBという結果も起きない」ということが完全に言えないという点において、似ているというのを学んだ。

適切なまとめの文章なので掲載しました。マックスヴェーバーのポイントは、イメージでなく論証したこと。しかし、反証可能か、という点難しい。

今回の授業における社会学、気象学といった、要因に人間の行動、行動力が、少しも絡んできて、「気象の場合、台風は海水の温度の上昇は温暖化の影響もある」と言いたい述べた観測的・実証的データが難しになり、実証が困難になると思いました。

それは、気象学や、人間の行動に関するような学問全体に当てはまりそうです。

「気象学」は科学に思いました。「気象学」は電が出ることがいかにいかに命からせめておくれよ。

いい指摘です。台風や温暖化は、

自分は今、自然科学基礎で古生物について学んでいる。その中で自然史科学、歴史科学とついで触れる機会があった。その先生も再現と実証ができていける科学では言えないのでは？ と言っていた。

雲ができる気象学とは区別すべきかもしれません。なるほど、過去の地球の歴史に関わるような研究も、同様の問題がありそうです。別の方法論を打ち立てなければなりません。

2. スタンフォード監獄実験

心理学の分野では、この実験は色々な意味で外せない実験ですね。

今回の授業では、「スタンフォード監獄実験」の動画を観ました。私は心理学専攻なので既知。このビデオが、科学のABCという観点では見たことがなかった。改めて見てこの実験が非道徳的かつ再現可能、反証が不可能な実験であったということが分かりました。

情報をありがとうございます。ただ、後半の「証拠」について、私もウェブで調べて見ました。ウェブでたどれる(英語の)情報源は、いずれも、ウェブ上のブログ等でしかなく、他の人のチェックを受けた公式な文章ではありません。判断保留です。

今回の実験は実は被験者の自発的行動ではなく演技指導があった。囚人役と怒らせると捉えられているというこの実験の根拠を揺るがすような言説は出てきています。(2016年、明)

この実験は学校に行っている人ばかりが受ける。いや、学校でいじめられている人も受けたい。社会的に受ける。いや、学校でいじめられている人も受けたい。いや、学校でいじめられている人も受けたい。いや、学校でいじめられている人も受けたい。

しかし、学校でのいじめに似ている、という指摘や、アメリカ軍のアブグレイブ刑務所での虐待を考えると、実験結果の妥当性が考えられます。考えてみれば、私たち

人は囚人を監視するというのが単純に性格が変わるとは知らなかった。

も、学生としての役割、教員としての役割を演じている部分がありそうです。

個人自覚には人の攻撃性を試すのではなく善い部分も検証することは出来たのかと考へてしまいます。

「付き合い人間は選べ」とよく聞くから、昔から人間が周りが受ける影響が大きいことは知られていたのだと思ひ、これは。

朱に交われば赤くなる、という言葉があります。友人と似たようになる、という話です。それはいい友人の影響も受ける、ということです。

ただ、何が「良い影響か」という判断は、人によるので、やはり私は危険性を感じ取ります。

朱に交われば赤くなる、という言葉があります。友人と似たようになる、という話です。それはいい友人の影響も受ける、ということです。

知覚がなくても状況による人格の変化は人命に直結する恐ろしいものか。ということも明確に述べた。道徳的に「善い」と感じる。

「スタンフォード実験」は、7. 前回の授業の際に先生がスタンフォード実験の話で自分の頭の中で想像をしてみたら自分が想像していた以上の監獄実験になって驚かされた。

私は、この実験を全き悪いものとは思いません。「悪いものとは思わない」の意味にもよりますね。実験結果の重要性は明らかです。しかし、それが被験者の人生を台無しにするようなことであっても、やるべきことだったのか、が論点ではないでしょうか。

私は、「状況のガ」が人の心を変質させるのではなく、

これも仮説Bですね。しかし、人間の本能を確かめる検証はできないでしょう。

人の「動物としての心(本能に近い)」、叫び起こさせるはたまたまをするものだと考へる。証はできないでしょう。

影響の受け方の度合いはそれぞれだから、変化をデータとして扱うのは難しいかと感じた。

この点は、電話のテレパシー実験と同じです。心理学の場合には、どうしても統計学の力が必要です。

### 3. 選択・運命

物理帝国主義について、この見識は何にでも当てはまる科学のABCという万能を用いることができない。の先にある未来の予測が= 当てはまる「ラプラスの悪魔」という物理帝国主義的な考え方の一つに当てはまり得ると思ふ。

ニュートンなど有名な科学者は老年になつたおし神学を研究しはじめた人が多いようです。これで「なにかの関連性があるかもはまません」と考えています。

選択が変えられ、結果も変えられ。もし私はこの授業を選ばない、他の授業を選択し、結果、単位を取るといふ結果が同じ。

選択の科学と思ひましたが、何かを選ばず、私たちの脳はストレスを感じるらしく、適当だけ負荷を与えずに過ぎずには、身の回りをルーチン化せよといふらしいです。(通勤の際は必ず「両目の左側の電車に乗る。授業では一削目の右、帰りはあのコンビニ、週末はあのお店... など。)

でも、ヒトラーの映像を見て、過去は変わらぬけれど、次同じ状況に陥つたときにより良い選択をできるよ、と、考えよ、と必要だと思ふ。

物理帝国主義は、科学のABCではなく、物理法則が未来を予測できることにポイントがあります。この点については「物理学概論」の授業でお話します。

そもそも、物理学の多くは、占星術や、錬金術などにルーツがあります。ニュートンも錬金術に興味を持ちました。

これは、やや残念なコメントです。私は、多くの学生は、この授業を受けて、考え方や世の中の見方が既に変つたのではないかと思つたのですが。選択には、そのような側面があります。つまり、ストレスです。しかし、選択には力があります。今回は、その点を強調したいです。

これも授業を先取りするようなコメントです。科学のABCが使えない問題に対して、どう選択するか。歴史はヒントを与えてくれます。

### 4. なぜ学ぶか

学問に依つて、人を傷つける確率が高くなる。戦争で科学者が、戦争で使う兵器を生み出したことやそれらの兵器を生み出すために、多くの人命を犠牲にしてきたことを上げてそれを明らかに。

シバルト-による実験は彼が状況の力を知りたい、調べたいという欲があつて、その状況がうんで、最悪の実験で付いていふ。

この授業でお話しする予定の内容を先取りするようなコメントです。

そうまでして、私たちはなぜ、学ぶのでしょうか。それは、もちろん、色々な理由がありえます。

例えば、知的好奇心です。知りたいから学ぶ、研究する。それは否定できません。しかし、それだけでいいのか。

皆さんの中には「面白いから勉強する」と考えている人もいるでしょう。しかし、それが、ときどき、論理的には全く関係がない、次のような話に展開されていることがあるので、注意が必要です。

- ・ 知的好奇心があるならば、何でもやってよい。
- ・ 面白くないものは勉強しなくて良い。

### 5. その他

「構成員の... 毎回楽しみに拝見して頂いてます」

今回は、更新が遅れて申し訳ないです。ぜひ、予習・復習に活用してください！ 期末試験も近づいてきました。